

令和7年度 兵庫県立明石西高等学校 学校評価・実践目標(期末評価)

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	R7中間 評価平均	R7期末 評価平均	令和7年度の達成状況と年度末に向けての方策
教育方針	(1)「自律・協同・誠実」の校訓のもと、夢と希望にあふれた地域に信頼される「生き生きとした魅力ある学校」づくりを推進する。 (2) 基礎・基本の充実を通して「確かな学力」を獲得し、「チャレンジ精神」を持って自己実現・進路実現を図る自立する生徒を育成する。 (3)「豊かな心」を育み「生きる力」を培う中で、人間尊重の精神を基盤とした知・徳・体の調和のとれた国際社会に飛躍する人材を育成する。		(1) 生きる力の育成と自主性・自律性の伸長 (2) 適切な教育指導、教育内容に基づく個性の伸長と進路目標の達成 (3) 地域に信頼される、地域に開かれた学校づくりの推進 (4) 国際化時代に活躍する人材の育成を目指した教育の推進 (5) 社会の変化に対応した学校の力量の充実と教職員の資質の向上 (6) 「学校いじめ防止基本方針」の見直し及びいじめ防止等に向けた指導のさらなる充実 (7) 教職員の勤務時間の適正化のさらなる推進 (8) 特別支援教育の推進	期末評価の総括 ①授業や生徒指導、進路指導、学校行事等、様々な取り組みを行っているが、専門性を高める研修の機会を確保することで、今日的な課題に対応していく。 ②学校からの情報発信を積極的に行っている。今後も情報発信を適時に行うとともに公開授業等来校していただく方を増やしていきたい。 ③業務改善に向け、職員の協働体制を構築しながら、対応策を実施していくことが今後の取り組むべき課題である。		
I 学校運営	1 開かれた学校づくり	①家庭・地域への情報発信	学校説明会や本校を紹介する広報誌の内容の充実を図る。	3.2	3.4	学校説明会(5月・9月)・オープンハイスクールを通して、中学生向けに丁寧な学校紹介を行った。またそれらの案内や入試のお知らせとして4月・7月に中学校訪問をした。
			学校公式Webページを通じて、学校行事等の情報を可能な限り広報するとともに、定期的にその内容を更新する。	3.3	3.5	今年度もブログの更新に力を入れ、「めいせいだより(普通科および教育類型)」は毎日更新、国際人間科・部活動だよりは行事毎に更新を行った。また各ページをまとめた「MEISEI通信」を発行し、在校生や家庭に発信した。
		②学校評議員制度の学校運営・改善への活用	学校評議員との意見交換の場を設け、学校運営等の改善に役立てる。	2.8	3.0	学校評議員会の実施や学校行事への参加依頼により、ご意見を頂戴した。次年度も引き続き学校行事へ参画の機会を持ち、意見交換していく。
	2 生徒指導	①生徒指導方針の明確化とその評価による指導体制の推進	生徒指導方針を職員、生徒に示し、定期的にその方針の達成状況を確認しながら、生徒指導を推進する。	2.9	3.0	規程の見直しについて今年度も検討し、いくつか変更を行った。携帯電話・タブレットの校内使用や服装などの規程の見直しについて引き続き検討していく。
		②生徒の内面理解を図る指導方法の工夫	いじめに関するアンケートを学期ごとに実施するなど、生徒の抱える悩み等を把握する。	3.3	3.4	アンケート後の生徒との面談を踏まえた結果を全体で共有するようにした。
		③生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫	部活動や生徒会活動、学校行事などの活性化を図り、生徒の主体的な活動を支援するとともに、自主性・自己有用感を高める。	3.1	3.4	明西祭を昨年度と同様に保護者の参加を制限をかけて2日間開催した。スマート決済の導入など、次年度以降の明西祭の在り方について協議した。
	3 進路指導	①進路指導体制の充実	各学年と専門部が連携・協力し、組織的・継続的に進路指導に取り組む。進路指導室で当番教員が生徒の相談に対応できる体制を作る。	3.0	3.3	一学期は昼休み・放課後に当番教員が進路指導室に在中し、二学期以降は部長が常駐して、生徒の質問や相談に対応できる体制をとった。今後も継続していきたい。
		②主体的な進路選択能力の育成	生徒自らが将来の進路を選択し、その実現に向けて計画的・継続的に取り組む能力を育成する。キャリアノートを取り入れた「進路の手引き」を作成し、活用を図る。	2.9	3.0	昨年度末の目標通り、「進路の手引き」の完成時期を早め、5月半ばには使用可能にできた。今後、内容の精選と充実と努めたい。
	4 教職員の資質向上	①実践的指導力の向上	公開授業や研究授業を充実させ、指導法や授業形態の工夫を図る。	3.0	2.9	本年度も5月末から6月最初にかけては校内向けに、10月末には保護者に対しての公開授業を実施した。秋季の公開授業時は昨年よりも多くの保護者に参加していただき、好意的な意見も多数寄せられた。次年度以降も公開授業期間だけではなく日頃から、より生徒の主体性や積極性を伸ばすことができる授業づくりに向けての工夫を行っていきたい。
		②計画性を持った研修の実施	各部・各委員会の協働により、学校の諸課題に関する校内研修を計画的に立案する。	2.8	2.7	新たな教育課題への対応について、部署からの研修会の立案・実施ができた。引き続き教員全体での研修、部署ごとの研修共有・個人での研修受講機会の確保を行う。
	5 危機管理体制の整備	①実践的な研修・訓練の実施	危機管理マニュアルの点検及び改善を行う。	3.0	3.0	災害発生時の対応について、生徒・保護者に周知できるよう、内容の見直しを行っている。校内の施錠について、古い鍵の取替も含めて改善の必要がある。
	6 研究活動、指定事業の推進	①現行学習指導要領に基づく授業改善等の取組	指導目標を明確にし、探究活動を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。	3.0	3.1	年2回生徒に対する授業アンケートを実施し、生徒の意見などを集めるとともに、それらをもとに見直し、改訂した各教科の「明西グランドデザイン(カリキュラムマネジメント)」を実践し、授業改善につなげるようにしている。
	7 業務改善の推進	①業務改善を全職員で実施	職員のワークライフバランスを改善すると共に、業務量や業務分担の見直し、スクラップ&ビルド、報告・連絡・相談等の情報共有、会議のペーパーレス化等の業務改善により、生徒と向き合う時間を確保する。	2.6	2.4	面談週間等で生徒と向き合う時間の確保はできたが、業務量の多さもあり、勤務時間の縮減が難しい時期もあった。引き続き業務改善に向けた取り組みを行う。
	II 教育課程	1 自ら学び考える力の育成	①体験的・問題解決的な学習の展開	ふれあい育児体験やミニ・ティーチャー等の体験的な学習や、問題解決的な学習を推進する。	3.3	3.5
②生涯教育の視点に立った実践能力の育成			学校設定科目を含め多様な選択科目を設定し、特色ある教育課程を編成するとともに、精査と見直しを行う。	2.9	3.2	令和4年度入学生より新カリキュラムを作成。今後、本校の特色や魅力を出しつつ、引き続き、教育課程の精査と見直しを進め、授業編成を行う。

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	R7中間 評価平均	R7期末 評価平均	令和7年度の達成状況と年度末に向けての方策
II 教育課程	2 基礎・基本の定着	①生徒の学力の把握と評価規準の設定	各教科で評価規準を設定し、それに基づいた評価を行う。	3.2	3.4	評価基準は教育課程委員会や各教科会を通じ、議論され、各教科・科目において場面や方法を工夫しつつ、適正に行われた。
		②学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	より計画的な指導を推進するために、シラバスや年間指導計画の整備を行う。	3.1	3.3	必修科目・選択科目ともに生徒たちが、より活用しやすいシラバスの作成を目指し、各教科・科目で詳細に作成した。今後も生徒たちがシラバスをより一層活用できるように検討を進めていく。
	3 総合的な探究の時間	①教職員の協働体制の確立	推進委員会を定期的開催し、3年間を見据えた計画を立てるとともに、生徒のニーズに合った学習テーマを設定し、全教員が取り組む。	2.7	2.8	本年度も各学年の先生だけではなく、学年外の先生とも協力し、生徒の興味関心に基づいた探究活動が行われた。担当教員の個性や知識・能力を活かしつつ、様々な探究活動が行われた。次年度以降も今年度の取り組みを参考に、さらに進化できるように工夫をしていきたい。
		②創意工夫を生かした実践の展開	表現活動の場を設定するとともに、各教科の学習活動や特別活動との連携を図る。	2.7	3.0	本年度も2年生(49回生)がグループでの課題研究を行い、発表に取り組んだ。43回生以降、上級生が下級生発表を見せる形での継承が続いており、各学年ごとの研究内容や方向性もできつつある。
	4 個に応じた学習指導の徹底	①評価方法の創意工夫	学習指導の過程における評価を行い、評価活動を授業の改善に生かすことにより、指導と評価の一体化を図る。	2.9	3.1	「指導と評価の一体化」については、年2回行っている生徒への授業アンケートをもとに、「明西グランドデザイン(カリキュラムマネジメント)」の目標と称号を行い、検討していく。
		②指導形態の工夫	習熟度別授業や少人数指導の深化を図るとともに、チームティーチングや、ICTを活用し思考力・判断力・表現力を高める等授業改善を図る。個別学習や協働学習等、指導を工夫する。	3.1	3.3	各教科において、授業内でICT機器を活用し、生徒の興味・関心を引き出すとともに、思考力や表現力などを深める工夫がなされた。来年度以降も引き続き、授業改善を進めていきたい。
5 学校の個性化・多様化	①学科の特色をそれぞれ踏まえた教育の推進	(普通科)基礎的・基本的事項の完全定着に努め、学習に対する取組を組織的・計画的に支援する。	2.9	3.2	少人数制・習熟度別授業などを中心に、個に応じた授業改善を行ってきた。また公開授業の実施や教員の研修などを通じ、効果な指導方法の工夫や改善を図っていく。	
		(普通科・教育類型)体験学習や課題研究等により、教育や社会への洞察を深める。	2.9	3.3	校外の体験学習や校内の課題研究においても、組織における自分たちの役割を認識しており、良好なコミュニケーションがとれている生徒が多かった。	
		(国際人間科)特色ある専門科目や多彩な行事を通じて、グローバルな視点で考え行動できる人材の育成を目指す。	3.1	3.3	Global Citizenship 特別講義を4回行い、国際人間科生が卒業生や大学講師による講義を聴いた。また、イギリス研修旅行、マレーシア・オーストラリア語学研修にも多数参加し、成果を上げた。	
6 カリキュラム・マネジメント	①カリキュラム・マネジメント研究の推進	本校の強みを更に生かした教育活動を展開するため、教科横断的な観点からの教育課程の編成を目指す。	2.6	2.8	本校で設定している「明西グランドデザイン(カリキュラムマネジメント)」をもとに、各教科・科目内で、身につけさせたい資質や能力をいかに習得させるかを検討した。また他教科の教員との連携などで幅広い視野での学びを深められるように検討をしていきたい。	
III 課題教育	1 防災・安全教育、健康教育	①教員の防災・安全教育にかかる指導力・実践力の向上	学校安全計画の見直しを行うとともに、防災訓練や救急救命講習会が実のあるものとなるよう、教職員の意識を高め、生徒の安全意識を高める。	3.2	3.2	シェイクアウト訓練・阪神淡路大震災の追悼放送で、教職員・生徒の安全意識の向上を図った。来年度も、防災避難訓練や心肺蘇生講習会の実施を予定している。
		②生涯にわたる健康の基礎を培う指導の工夫	「保健だより」を発行するなど保健室の機能を生かし、適切な健康管理・保健指導を行う。また、インフルエンザ・コロナウィルス等の感染症について、感染防止に必要な知識の理解や態度の育成を図る。	3.3	3.3	定期健康診断の適切な実施及び事後措置を行い、適切な健康管理に努めた。毎月の「保健だより」の発行や保健指導、各種講習会の実施を通じ熱中症や感染症予防等の知識を深め、生涯にわたる健康意識の向上に努めた。
	2 人権教育	①人権教育推進体制への取組	3年間を見通した人権HR・人権福祉講演会等の充実を図り、計画的に実施する。感染症罹患者への差別・偏見を防止する。	2.8	3.1	人権講演会の実施について、3年をサイクルとして内容を精選、検討、決定し、在学中にバランスのとれた講演内容を提供するようにした。人権HRの内容についても実施内容の整理を進めたい。
	3 情報教育	①情報モラルの育成	「サイバー講演会」や教科「情報」の授業等を通じて、スマートフォンやネットに潜む危険性を生徒に理解させる。	3.0	3.2	4月よりSNSによるトラブルが複数件あったので、集会や行事の時間を使って、注意喚起した。サイバー講演会を生徒、保護者、職員対象に専門家の講演会を3回実施した。講演会では生徒からの質問も活発に出る等関心が高かったと思われる。
	4 国際理解教育	①他国の歴史や文化の理解	海外研修旅行の事前事後学習で、訪問国の歴史・文化・生活習慣等について理解を深めさせる。	3.0	3.4	イギリス研修旅行に関連して、イギリス文学(シェークスピア「ヘンリー八世」・「オペラ座の怪人」)に触れてから現地へ行き、実際にロンドン塔見学やミュージカル「オペラ座の怪人」を鑑賞して感動し大きく成果をあげた。
②交流事業の推進		姉妹校との相互訪問等を通じて、生徒同士の交流を深めると共に、Zoomの活用等のICTを活用した交流を深め、異文化理解の深化を図る。地域や大学、企業等と連携し、幅広く国際的な視野を広げる活動を推進する。	3.1	3.4	マレーシア・オーストラリア語学研修を行い2つの姉妹校を訪問し、生徒同士の交流を行った。また、姉妹校(4月 チャーチランズ高校)の訪問団を受け入れ、授業内外で生徒たちの交流を行った。	
5 特別支援教育	①校内支援体制の充実	職員の研修を深め、特別支援教育コーディネーターを中心に全教職員で、支援が必要な生徒へのきめ細かく適切な教育的支援を行う。	2.9	3.0	年4回の総合支援委員会と年1回の要支援・配慮生徒情報交換会をおこない、生徒の情報を全職員で共有し、必要な支援をおこなった。	